

令和6年8月30日



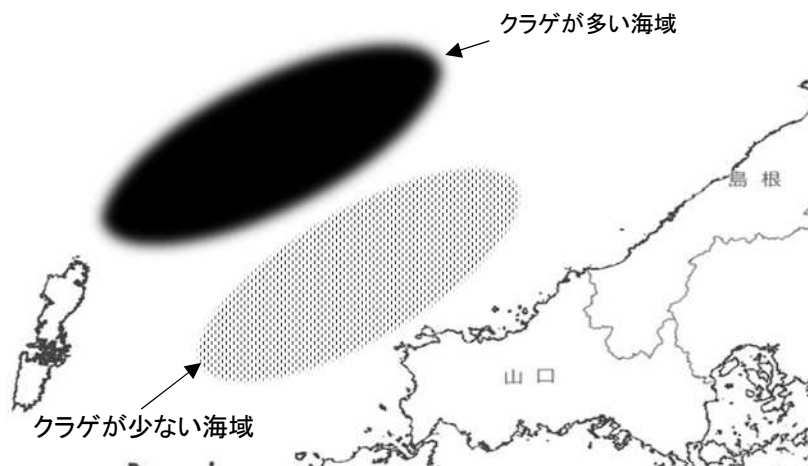
大型クラゲ情報(令和6年度第7号)

概要

- 県内各地の定置網では1日数10～数100個体が入網しており、大量入網の被害により休漁せざるを得なくなった経営体もあります。
- 沖合底びき網でも大量の入網があり、各種の漁業被害が生じています。また、まき網への入網数も増加しました
- 対馬では依然として入網しており、日本海への流入が続いていると考えられるため、引き続きの警戒が必要です。
- 気象状況によりクラゲの出現状況が大きく変わる可能性があります。台風通過後は特にご注意ください。

本県の出現状況(8月29日現在)

- ・前号(第6号)でお伝えしたとおり、定置網では益明けから入網数が増加しましたが、その後も県内各地の定置網で、1日数10～数100個体が入網が確認されています。操業遅延や漁獲物の品質低下などの被害があり、大量入網により休漁せざるを得なくなった経営体もあります。
- ・県西部の沖合底びき網では、1網毎に数10～数100個体が入網し、操業遅延や漁獲物の品質低下等の被害が生じています。また、クラゲを出すために網を開放したり、クラゲが少ない海域へ漁場を移動せざるを得ないため、高単価の魚種の漁獲量が減少するという被害もあります。なお、沖底からの報告によるとクラゲの分布には粗密があり、対馬北東の海域では多い一方、福岡県沖ノ島周辺や山口県見島周辺では少ないとのことです(下図参照)。



*8/22～8/27に操業した、複数の沖底からの報告をまとめた図

- ・島根半島沖で操業するまき網でも、1日1経営体あたり10トン程度の入網が確認されており、前号での報告(8月22日現在、1日1経営体あたり1～6トン)よりも増加しています。

漁業情報サービスセンター（JAFIC）からの情報提供（8月29日現在）

- ・ 太平洋側（八戸）での初確認がありました。
 - ・ 対馬では依然として入網があります。100 個体を超える入網が散発的にみられており、後続群への注意が引き続き必要です。
 - ・ 山口県から北海道まで、日本海の広範囲で発見情報があります。
 - ※ 山口県の小型底びき網では、萩市見島～相島の海域において、8月1日～15日のうち7日間の操業で、合計21個体の入網がありました。
 - ・ 山陰～北部日本海までの全域で引き続き警戒してください。特に台風通過後は注意してください。
- ※詳細は漁業情報サービスセンターHP (<http://www.jafic.or.jp/kurage/index.html>) を参照

大型クラゲのための漁具改良マニュアルについて

- ・ 水産研究・教育機構が、大型クラゲ対策のための底びき網や定置網の漁具改良、海洋駆除の方法についてまとめたマニュアルを公開しています。下記の場所にありますので、ご参考ください。

https://www.fra.go.jp/shigen/marine_environment/kurage/files/kurage4.pdf

【発信者】

島根県水産技術センター
海洋資源科 担当：石原
TEL: 0855-23-4806
FAX: 0855-23-2079
Email: suigi@pref.shimane.lg.jp